

令和元年10月 定例教育委員会々議録

1 日 時 令和元年10月29日(火) 午後1時30分～

2 定例教育委員会

開催場所 会議室301

3 出席委員の氏名

教育長	遠藤浩	教育長職務代理者	黒川優子
委員	山崎克弥	委員	中野信男
委員	秦久美子	委員	齋藤純郎

4 説明のため出席した職員

教育次長	宮路一規	主幹	二平芳信
学校教育課長	太田和行	子育て支援課長	白井健次
社会教育課長	石田進一	指導主事	廣川統

5 本委員会書記

学校教育課 横田雄司 他2名

6 傍聴人

1名

7 会議に付議した事件

諸報告

(1) 行事報告及び行事予定

(2) 教育長報告

専決処分の報告について

報告第10号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題

協議第8号 新規共催・後援申請について

8 閉会

会議録

別紙のとおり

1. 開 会 宣 言                    午後1時30分～

2. 会議録署名委員の指名      齋藤 純郎 委 員

3. 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定について

〈各課長が報告〉

○委員（齋藤 純郎）

10月15日、16日に行われた高校訪問に参加させていただいた。

15日の新潟高等学校では、進路指導部の先生から教育目標や様々な取組についてご説明いただいた。大学入試も変わってきていて、社会が求める人材像も変わり、世界の潮流が大きく変わっているので、それに対応する人材を育てなければならないという意識を強く持たれていた。そのためにも教員も生徒も授業を大切にし、授業内ですべて完結するようにしていて、基本中の基本をずっと守って来られているということで大変素晴らしいことだと感じた。予習が前提であり、生徒の皆さんも予習を行って授業に臨んでいるとのことで、きちんと目的意識を持っているのだと感心した。ただ、進路指導部の先生からは、厳しい競争を勝ち抜いてきた生徒たちでさえも、今は指示待ち状態のような指示がないと動けない生徒が非常に多くなってきていて、それを打開するべく、一年次で自分たちで考えて自分たちで物を作っていくということを徹底的に教え込んでいるというお話もあった。

16日の燕中等教育学校は、創立以来「Be Global!」を合い言葉に、6年間の一貫した教育を行っていることがよく分かった。すべての生徒に対して時間をかけてやる気を起こさせ自立を促している先生方のご苦勞は大変なものだと改めて感じた。今回一緒に参加した小中学校の先生方は、燕中等教育学校に初めて来たと言っていたが、やはり学ぶべき点が多かったと思うので、今後も多くの先生方から参加してもらいたい。また、燕中等教育学校が市立小中学校から学ぶ点もあると思うので、相互に協力しながら教育に取り組んでいってもらえれば有難いと感じた。

## (2) 教育長報告

〈遠藤教育長が以下のとおり報告〉

### 1 県などの動き

#### (1) 高等学校訪問

燕市立の小中学校の先生方や教育に携わる方々に高校での教育活動を知ってもらうため、平成22年にはじまり、今年で10年目を迎えた。今年は新潟商業高校9/27、新潟高校10/15、燕中等教育学校10/16に実施した。高校で何が行われているのか、根底にあるのは「選ばれる学校づくり」という考え方。近年は公立高校より私立高校の特色化が魅力的になってきた。

#### (2) 働き方改革・・・その後

国の示したガイドラインを踏まえた教員の勤務時間の削減と上限設定に向けた動きが少しずつ進んでいるように感じられる。36協定にも関係することから、ある程度の調整期間は必要なのかもしれない。しかし、結局のところ、学校に先生がいない時間が増えるのだから、そこを補完する行政側の支援策も大切になってくる。

#### (3) 人権教育、同和教育

来年10月31日、11月1日の2日間、本県で初めて「第72回全国人権教育・同和教育研究大会新潟大会」が上越市で開催される。参加者は1万人と言われるほど大きな研究大会で、開催に向けた準備を上越市が苦心しながら進めていると推察する。

本市では、来月19日からの「いのち・愛・人権」燕展の開催に向け、パネル制作が精力的に進められている。市内の児童生徒をバスで輸送し参加させる準備も整った。多くの市民にも参加してほしい。

被差別部落の写真公開や動画などをインターネット上にアップロードする深刻な問題が継続している中で、正しい情報を正しく理解できる力を児童生徒に持たせてやることが急務である。

### 2 雑感

児童生徒数は減少している。私と一緒に中学校を卒業したのは3万7千人いた。今では2万人を切りもうすぐ1万8千人台になる。それなのに、特別な支援を要する児童生徒の数は増加傾向にある。不登校者の数も減らない。いじめ認知は定義を明確化したから、件数が増えた。補導件数は減少しているらしい、駅前にたむろする生徒がいなくなったからだそう。

○委員（黒川 優子）

教育長報告の中で、不登校者、いじめの話があったが、11月5日の校長会で問題提起をしてもらいたいことがある。文化祭、修学旅行のときに、好きな人同士でグループを組むというのは、外れる子が出てくるのではないかということである。あの子がほしい、この子はいらないとなるのではないか。実際、そのことで今辛い思いをしている子がいるという相談を受けた。好きな人同士でグループを組むということに関して、私たち素人が聞いて納得できる理由があるのだろうか。昔は、名簿順で組分けされていたこともあったような気がする。すべての学校が同じ方法だとは思わないが、この方法を選択する理由が分からない。保護者は納得しているのだろうか。毎回上手くグループに入ることが出来ればいいが、どうしたって中には外れてしまう子も出てくる。これが不登校、いじめに繋がっていくのではないだろうか。このことに先生は気づいているのだろうか。一人でも辛い思いをしている子がいるのであれば、そのやり方は適切ではないと私は思う。

○主幹（二平 芳信）

以前から、仲間外れを出さないことを約束できる学級では、好きな子同士で組ませることを行っている。しかし、外れてしまう子が出る傾向のある学級では、好きな人同士で組ませることはしていないが、黒川委員のお話を聞いて、実際にそのようなことがあるということが分かったので、校長会のときに問題提起する。

4. 専決処分の報告について

報告第 10 号 共催・後援の教育長専決報告について

6 件の後援について

〈No. 1、2、3、5 について石田社会教育課長が説明〉

〈No. 4 について太田学校教育課長が説明〉

〈No. 6 について白井子育て支援課長が説明〉

5. 協議題

協議第 8 号 新規共催・後援申請について

1 件の後援について

〈太田学校教育課長が説明〉

6. 閉 会 午後 2 時 20 分

教 育 長 遠藤 浩

---

会議録署名委員 齋藤 純郎

---

会議録調整者 矢川 麻里子

---